

令和8年度 新たなまちのかたちに関する意見交換会 日置地区 協議記録

日 時	2026年8月28日（金）18:00～19:20
場 所	日置公民館

参加者： 28名

【開会のあいさつ】

糸矢区長会長：

能登半島地震から2年8か月、奥能登豪雨から約2年が経った。道路が少しずつ良くなり、新しい家も建ち始めるなど、震災直後と比べれば状況は大きく変わってきた。一方、仮設住宅に住む方の住まい、生業、祭りや地域行事など課題は多く、日々の生活を考えることで精一杯となり、「新たなまちのかたち」をどうするかまで議論できていないのが現状である。

本日の機会に、市の考えを聞きながら、日置地区をどのようなまちにしていきたいか、何が必要かを積極的に意見交換し、今後のまちづくりにつなげたい。

泉谷市長：

能登半島地震から2年8か月、奥能登豪雨からまもなく2年となる。多くの方の支援を受け、応急復旧から少しずつ本復旧、復興へ進み始めている。日置地区では、昨年、「狼煙のみんなの家」がオープンし、折戸地区では花火が上がり、今年も狼煙復興祭など、地域の皆さんが復興への思いを込めた様々な取組みを進めている。行政だけでなく、地域の取組みが復興には重要であり、今後も共に日置地区の再生と復興を進めたい。

復興公営住宅は、狼煙町団地で10戸、折戸町団地で10戸を予定しており、折戸町団地はすでに発注済みである。加えて、木造応急仮設住宅を珠洲市賃貸住宅へ転用するものは狼煙町第2団地で3戸、折戸町第1団地で42戸を予定している。6月に入居申込みを受け付けた結果、日置地区については概ね希望に応えられる見込みである。

インフラ復旧では、県道折戸・飯田線の折戸川河口部において道路線形を変更し、より走りやすい道路にする改良復旧を石川県に進めていただく。また、折戸町第1団地の仮設住宅や今後整備する復興公営住宅へのアクセス道路についても、より緩やかで走りやすい道路にする計画のイメージが固まりつつある。地権者への正式な相談前であるため、本日は図面を示せないが、しっかり進めたい。

狼煙地区についても、地域の皆様が各地を視察しながら様々な構想を検討していると聞いている。

行政として必要な整備があれば、地域と話し合いながら進めたい。本日は限られた時間ではあるが、率直なご意見、ご要望をいただきたい。

【資料説明】

- ・地区別まちづくり計画について

【意見交換】

参加者：

木ノ浦地区について三点伺いたい。第一に、強い雨が降ると山から一気に水が流れ込み、下側の住宅では生活に支障が出るほか、土砂崩れの危険もある。県、市、県自然環境課で協議し工程表も示されたが、進んでいるように見えない。排水対策の進捗を確認したい。

第二に、木ノ浦ビレッジの一棟は基礎部分がえぐれたままで、以前から復旧を要望しているが復旧していない。第三に、木ノ浦海岸の公衆トイレが使用できず、今年も海水浴客が来ていたのに不便だった。海水浴シーズンまでに直すと聞いていたが、復旧していない。今後どのように復旧を進めるのか。

また、日置公民館は4月に復旧工事の入札があったが不調となった。エアコンがなく、冬は仮設配管が凍結してトイレが使えず、外構も暗く危険である。指定避難所であるにもかかわらず十分機能しない状況なので、早期復旧をお願いしたい。

市道 436 号線の駐在所付近から須須神社方面へ抜ける道路では、以前から擁壁等の未施工箇所があり、現在はかなり危険な状態になっている。30～50m 程度の区間について、崩落する前に早く対応してほしい。

市長

土木復旧工事の入札に関しては6割、建設工事は7割が落札してもらえない状況である。複数の工事を一本化して発注するなど、発注方法を工夫しながら進めている。

石川県：

木ノ浦地区の排水については、県土木と県自然環境課で排水状況の確認を行い、設計を進めている。目に見える工事段階には至っていないが、事業が止まっているわけではない。現地の水路を山中まで確認し、おおむねの対策方針は定まっている。どこへ排水を回すことが最も効果的なのかを確認しながら設計作業を進めている。

木ノ浦ビレッジ周辺の法面復旧については、施工業者が決定している。契約後の準備が必要であるため、もう少し時間をいただきたい。法面復旧後、市側で建物の復旧を進めることになる。

珠洲市：

木ノ浦地区の公衆トイレを含む建築物の修繕は、道路や河川以上に職種ごとの人手不足が大きく、入札不調が続いている。学校、保育所等も含め、一箇所ずつではなく複数箇所をまとめ、新築は新築、修繕は修繕として発注するなど、業者が受注しやすい方法を検討している。もうしばらくお待ちいただきたい。

市道 436 号線については、地すべり防止区域であることを考慮しながら設計を進めており、現在、設計がまとまる段階まで来ている。設計が整い次第、できるだけ早く発注する。

日置公民館の災害復旧工事は設計を終えているが、工事入札が不調となり進んでいない。発注方法を見直しながら、極力早期に復旧できるよう努める。

参加者：

県道の大きく崩れた箇所で迂回路と盛土工事を行っている件について、昨年8月頃にも進捗状況を教えてほしいと伝えたが、それ以降ほとんど連絡がない。現在どの程度進んでいるのか、今後の見込みも含めて説明してほしい。施工 JV は、地元企業を含む体制であるが、現場や地域への説明が十分でないと感じている。

石川県：

迂回路を設け、上部から掘削を進めており、現在の進捗は4割から5割程度である。当初予定していた12月完成は難しい見込みである。工期を延期する場合には、今後の見通しを含めてきちんと連絡する。これまで地元への説明が不足していたことをお詫びする。

市長：

地域への進捗の連絡が十分でなかったことは申し訳なく思う。今後、工事の進捗や見通しをしっかりと連絡するようにしてもらう。

参加者：

日置公民館は指定避難所だが、日置ハウスは今後どう位置付けるのか。能登半島地震の際、折戸地区では日置ハウスに多くの人々が避難したものの、使用できる場所がロビーや廊下に限られ、横になれない人もいた。入れなかった人は自宅や車で過ごしたが、避難所にいない人には救援物資が行き渡らないという状況もあった。

今後、再び大災害が起きた場合、指定避難所の日置公民館を使うのか、日置ハウスを自主避難所として使うのかを明確にしてほしい。また、避難所に入っていない在宅避難者や車中泊の人にも救援物資が行き渡る仕組みにしてほしい。

市長：

日置ハウスは市が指定した避難所ではなく、能登半島地震の際は地域が自主的に運営した自主避難所である。自主避難所については運用やルールについて市が指示したものではなく、自主的に進めていただいた。発災直後は市として把握できていなかった。

当時の災害救助法では、避難所にいる方への支援が基本とされていたため、そのような運用になったと思われる。それでは不合理であるため、珠洲市では、在宅避難者や車中泊の方にも水、食料、物資が届くよう早い段階で指示を行った。最終的に 94 か所に及ぶ指定・自主避難所があり、通信も途絶する中、全てをすぐに把握し統一的に運営することは難しかった。支援物資が行き届かなかった点については申し訳なく思う。

現在は能登半島地震を踏まえて災害救助法も改正され、在宅避難者や車中泊の方への支援も明確化されている。日置ハウスを今後、自主避難所としてどう扱うかについても検討したい。また、震災対応の課題については検証委員会を取りまとめを進めており、冊子として各地区にも共有する。

珠洲市：

発災当初から、在宅の方を含めて物資を発注し、避難所にいる人だけでなく在宅避難者にも分けていただくよう情報発信をしていたが、徹底が十分ではなかった。今後は同様のことがないよう、地域と一緒に改善していきたい。

参加者：

岩坂ダムまでの道路はいつ頃復旧するのか。現在は目処が見えない。また、ダム内に土砂がかなり堆積しており、水量も減っているように見える。浚渫をどのように行うのか。

また、ダムまでの道路沿いでは木や枝が生い茂り、中・大型車の通行にも支障が出ている。以前は自分たちで伐採することもできたが、高齢化しており難しいため、対応をお願いしたい。

石川県：

岩坂ダムの災害復旧は、石川県奥能登農林総合事務所が進めている。ダム内に堆積した土砂は、堤体の池と反対側にある県有地へ一時的に盛土し、乾燥させる方法で処理する計画と聞いている。準備が整い次第、順次進める。

岩坂ダムまでの道路等の復旧についても石川県奥能登農林総合事務所が計画を進めている。道路が大きく崩落するなど復旧難度が高い箇所もあるため、各集落と協議しながら計画をまとめている。現時点では、設計が来年度、工事は再来年度以降になる可能性があると聞いている。

参加者：

川浦地区では、能登半島地震の際に住民が地区外へ避難し、集落が一時的無人になった経験がある。今後は川浦地区内で避難できる体制を整えたいと考え、山の水を非常時に使う方法などを支援団体と検討している。自主防災組織の補助を、より小さな集落単位の備えにも使いやすくできないか。

折戸町第 1 団地の木造仮設住宅 42 戸は賃貸住宅へ転用することだが、申込みは十数戸程度と聞いた。折戸町第 1 団地の木造仮設は、解体して移設・再利用しやすい工法で建てたと聞いている。今後余剰が出るのであれば、川浦地区へ 3 戸程度移設できないか。川浦地区には空き家がなく、若い人を呼び込もうとしても紹介できる住宅がない。移設する土地や入居者については地域で確保する努力をするので、移設を検討してほしい。

また、川浦地区の浜は海洋ごみが多い。碗平にある埋立処分場が使えず、回収や処理が課題である。海水をかぶったごみでも処理できる高性能焼却炉などの事例もあると聞く。珠洲市内で海洋ごみを処理し、資源化するような方法も検討してはどうか。

珠洲市：

自主防災組織への補助は、令和 8 年度から従来の年 10 万円から年 40 万円に拡充している。備品や食料など様々な用途に使える。まずは区長会と相談し、日置地区全体の枠の中で活用していただきたい。集落単位の自立的な備えは重要であり、今後さらに使いやすい仕組みも考えたい。

珠洲市：

折戸町第 1 団地の木造仮設住宅の移設は不可能ではない。県から仮設住宅を無償譲渡していただけた話があり、本設化する際に一戸当たり 450 万円程度を活用できる基金もある。ただし、移設・改修費がその範囲で収まるか、移設後を市営賃貸住宅とするのかなど、財源、管理主体、利用方法の調整が必要である。今後、県とも協議しながら可能性を検討したい。

市長：

海岸清掃で集めたごみについては、現在は分別したうえで回収することとしている。海水をかぶったものは塩分を落とす必要があるが、地域で集めたものは市として回収する。塩分を含んだごみを処理できる焼却炉については、導入費、管理方法、国の補助制度の有無などを確認したい。

参加者：

川浦地区へ向かう県道の海側へ曲がるカーブについて、道路幅はどの程度になるのか。

石川県：

川浦地区のカーブ区間は幅員 9 m 程度に広げる計画である。山側は崩れている部分を必要に応じて削り、海側には擁壁を設けて拡幅する。大規模な被災箇所であるため時間はかかるが、工事を進めている。

糸矢区長会長：

狼煙地区へ入る手前の県のポケットパークは石積みが崩れ、草も伸びている。早く復旧してほしい。また、禄剛埼灯台へ上がる階段や園地の舗装も傷んでいる。歩道だけでなく階段も含めて直してほしい。県の自然公園担当と市で調整してもらいたい。観光地で携帯電話が十分つながらない場所もあるため、フリーWi-Fi 等の通信環境も検討してほしい。

石川県：

狼煙地区のポケットパークについては復旧工事を発注済みで、施工業者も決まっている。人手の問題等で時間を要しているが、復旧を進める。

市長：

禄剛埼灯台周辺の階段、園地の舗装、通信環境については、県の担当課や市の観光交流担当とも確認し、できるだけ改善できるよう調整する。

参加者：

日置ハウスも電波が入らない。

市長：

検討する。

参加者：

川浦地区の道路沿いの公衆トイレは、屋根や周辺舗装が直っているのに、なぜ使用できないのか。観光客が多く、トイレが使えず困っている。早く使用できるようにしてほしい。

近くの木製ベンチやテーブルも腐食が進み、利用者が転倒する危険がある。観光客が休憩する場所なので、合わせて修繕してほしい。

市長：

復旧したくても入札不調で進まない箇所が市内各地にある。小規模な工事を地区ごとにまとめ、金額・規模を大きくして、より規模の大きい建設会社が受注できるよう発注方法を工夫している。9 月以降、こうした方法でできるだけ早く復旧を進めたい。

参加者：

宝立、飯田、直、正院、蛸島地区の下水道区域では、道路、橋、上下水道等を地区ごとにまとめて大規模発注すると聞いている。日置地区や大谷地区など、それ以外の地区の復旧はどのように進めるのか。

また、日置地区の相談窓口として、地区の状況を把握し、問い合わせればすぐ状況が分かる担当者を決めてほしい。担当が変わるたびに一から説明するのでは、なかなか前に進まない。

市長：

大規模一括発注の5地区は主に下水道区域であるが、それ以外の地区についてもエリアごとに工事をまとめ、発注ロットを大きくしてインフラ復旧を加速する。日置地区も当然対象である。

地域ごとのまちづくりを支援するため、地域おこし協力隊の募集・配置も進めている。担当体制についても改めて整理する。インフラ復旧については環境建設課へ相談いただければ、日置地区の状況を確認し対応する。

糸矢区長会長：

日置地区には学校がないため、現在進められている学校統合の議論について地域では関心が薄い面もある。ただ、子どもたちは緑丘中学校区等の学校に通っており、地域としても関係がないわけではない。小学校、中学校をどう統合するか、宝立地区や大谷地区、三崎地区をどうするかという議論が進んでいるので、意見があれば私まで伝えてほしい。検討会で日置地区の意見を伝えたい。

市長：

木ノ浦地区のレストハウスも被災しており、復旧工事を発注しようとしても受注者が見つからない状況である。施設が今後も地域として必要かどうか、木ノ浦地区の皆さんの意見も聞きながら、木ノ浦ビレッジと合わせて考えたい。

今年も木ノ浦地区には海水浴客が来ており、砂浜の回復も見られると聞いた。観光や地域の利用も含めて、今後のあり方を皆さんと考えたい。各地域で「こういうものがあればよい」という具体的なアイデアがあれば、今後も継続して伺いたい。

糸矢区長会長：

木ノ浦地区の住民の考えを尊重してほしい。

市長

木ノ浦ビレッジと木ノ浦レストハウスの件については木ノ浦地区の方と相談する。

参加者

今年の夏は、木ノ浦地区の海水浴客は多かった。砂浜の砂はもどりつつあり、5年くらいで元に戻るのではないかと考えている。以前、狼煙地区で浚渫した砂を木ノ浦海岸に入れる話もあったが、それは不要である。

市長：

本日は、インフラ復旧について具体的な確認や要望をいただき、新たなアイデアも出していただいた。至らない点も多く、お詫び申し上げます。今後も皆さんと意見や要望をやり取りしながら、日置地区と各地域の再生、復興を共に成し遂げていきたい。

以上